

大学入試の基礎知識と 今から始める受験準備～高1編～

Z会東大進学教室副代表:小梅智子

メニュー

1. 大学入試の基礎知識
2. 大学入試で求められる力
3. 今から始める受験準備

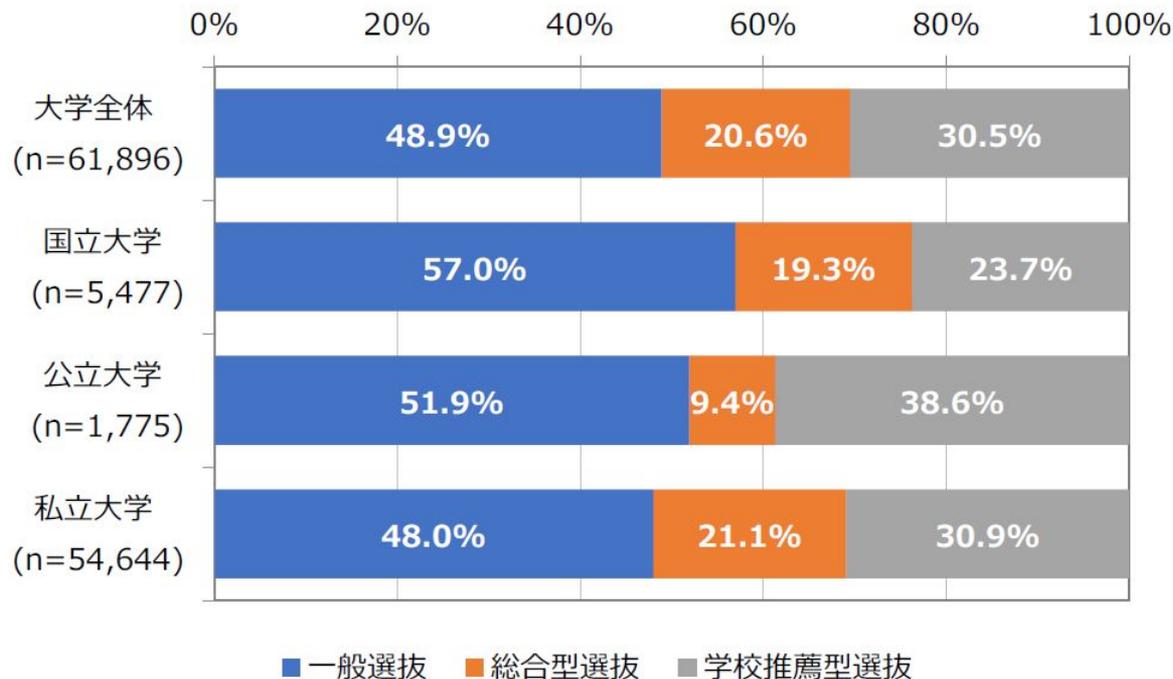
大学入試の基礎知識

大学入試の選抜方法

一般選抜 ※学力メイン	国公立大	<ul style="list-style-type: none">・前期、中期(公立のみ)、後期はそれぞれ1校ずつ受験できる。 ↳通常前期日程の募集人員が最も多いので、ここで第一志望の大学・学部を受験する。・原則、共通試験(大学入学共通テスト)と各大学が課す個別試験(二次試験)の合計得点で合否を判定する。・大学によっては、2段階選抜(共通テストの点数によって、個別学力検査が受験できるかが決まる)を行うことがある。
	私立大	<ul style="list-style-type: none">・大学によって実施形式や日程が大きく異なる。・日程が重複しない限り複数校・日程の併願が可能。
総合型選抜 ※学力以外も重視	<ul style="list-style-type: none">・出願に学校成績や資格・検定といった条件があることが多い。・個別試験は小論文や面接、総合問題など、一般選抜とは異なる出題になっている。・共通試験を課す場合が多い。	
学校推薦型選抜 ※学力以外も重視	<ul style="list-style-type: none">・公募制: 出身高校長の推薦があり、大学の出願要件を満たせば出願可能。・指定校推薦: 大学が指定した高校のみ出願できる。出願に際しては、高い評定や部活動などの貢献度が求められることが多い。	

大学入試の基礎知識

大学入試の選抜方法(令和5年)



大学入試の基礎知識

選抜方式:一般選抜

○国公立大学



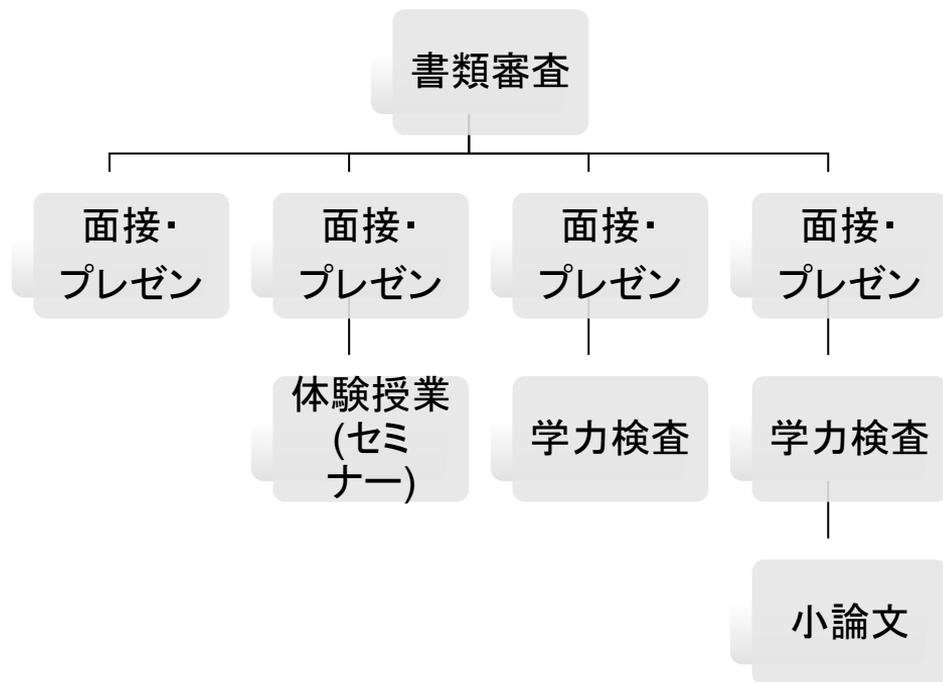
○私立大学



大学入試の基礎知識

選抜方式: 総合型選抜

○多様な入試方法



・志望理由書や調査書による書類審査、小論文や共通テストなどの学力試験、面接など、様々な切り口から評価される

・出願は出願要件を満たせば誰でも可能

★向いている方

- ・大学でやりたいことが明確な方
- ・課外活動を頑張っている方

大学入試の基礎知識

選抜方式：学校推薦型選抜

○指定校推薦

- ・私立大学や公立大学の一部で実施
- ・指定校となる高校には推薦枠(定員)と推薦基準となる全体の学習成績の状況など成績基準が示され、課外活動や出欠状況などの基準も活用
- ・原則として校内選考
- ・併願はできないので、合格＝入学となる

★向いている方

- ・コツコツ勉強できる方
- ・定期テストで点数を取れている方

大学名	学部	学科	人数
首都大学東京	法	法	1
首都大学東京	経済経営	経済経営	2
首都大学東京	都市環境	建築	1
横浜市立	医	看護	1
横浜市立	国際教養	国際教養	1
横浜市立	国際商	国際商	1
横浜市立	理	理	2

これは昨年度に依頼を受けた内容の一部です。
今年度(平成32年度)入試に確約されたものではありません。

大学名	学部	学科	人数
早稲田	文		1
早稲田	文化構想		1
早稲田	法		1
早稲田	商		1
早稲田	教育	数	1
早稲田	基幹理工	学系 I	1
早稲田	創造理工		4
早稲田	先進理工	化学・生命化	1
早稲田	人間科学		1
慶應義塾	法	法律	1
慶應義塾	商	商	2
慶應義塾	理工		4
上智	理工		3
東京理科	経営		2
東京理科	理工	数	1
東京理科	理		1

大学入試の基礎知識

選抜方式：学校推薦型選抜

○公募型推薦

- ・出願要件を満たし、通う高校(学校長)から推薦をもらえれば誰でも出願可能
- ・各大学が行う評価方法に従う
- ・大学入学共通テストの成績が課されることがある。

例：東京大学 募集人員100程度(各学校から最大4人まで、男女では各最大3人)

第一次選考：書類選考

第二次選考：学部によって異なる。

→個別面接やグループディスカッション、事前に作成した資料などを用いたプレゼンテーションのほか、小論文や外国語の面接。共通テストの点数で基礎学力を図る

例：京都大学 募集人員150名程度。

基礎学力以外に「学びの報告書」や「学びの設計書」を提出させる

★向いている方

- ・基礎学力があり、
+高校までの主体性・活動実績有
+大学で学びたいことが明確

大学入試の基礎知識

まとめ

○大学入試の選抜方式は1つではない

ここ数年で選抜方式は多様化

「大学入試＝学力」だけではなく、課外活動実績など多面的に評価する入試が増加

○どういった選抜方式があるのかを知り、自分には何が合うのかを考えておきましょう

とくに推薦を意識する場合、「学校での成績」「課外活動」が重要

大学入試には複数の選抜方法があることを知り、可能性を広げておくことが大切

○・・・といっても、高校生としての学力は大切 & 必須

一般選抜／推薦、いずれも高校生として適切な学力がついていることが前提になっている

→高校の勉強は基礎になる重要なもの！

→では、高校生としての学力としてなにが求められるのか？

2. 大学入試で求められる力

新課程と大学入試

教育・大学入試で求められるものとは？

■21世紀の社会はどうなっていくか？

社会の変化① 49%の職業が機械に代替される

社会の変化② 65%の子どもが今は存在していない職業に就く

社会の変化③ 約1/3の企業が外国人留学生を採用

社会の変化④ 将来の子どもは自分で考えて行動する社会で活躍していく

⇒急激に変化する時代の中で生きる力をはぐくむために、
教育の内容、その先の入試の内容も変えていく必要がある

新課程と大学入試

新課程について

○学習指導要領とは

文部科学省が定めている教育課程の基準。およそ10年に一度改訂

○新学習指導要領

旧課程＝『何を教えるか』の重視

新課程＝『何ができるようになるか』を明確化

- ①(生きて働く)知識及び技能
- ②(未知の状況にも対応できる)思考力、判断力、表現力等
- ③(学びを人生や社会に活かそうとする)学びに向かう力、人間性等

⇒新しい時代に必要となる、上記3つの資質・能力の育成

＝大学入試で求められること

※新しい時代＝情報化・グローバル化・AIの進化など、予想もつかない変化を迎える時代

新課程と大学入試

新課程の影響：共通テスト

○内容の変更

高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題作成

平成 21 年告示高等学校学習指導要領(以下『高等学校学習指導要領』という。)において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。また、問題作成のねらいとして問いたい力が、高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、出題教科・科目において問いたい思考力・判断力・表現力等を明確にした上で問題を作成する。

『どのように学ぶか』を踏まえた問題の場面設定

高等学校における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する。

新課程と大学入試

新課程の影響: 共通テスト

○内容の変更: 具体例

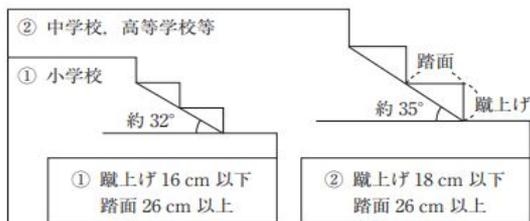
〔3〕 久しぶりに小学校に行くと、階段の一段一段の高さが低く感じられることがある。これは、小学校と高等学校とは階段の基準が異なるからである。学校の階段の基準は、下のように建築基準法によって定められている。



高等学校の階段では、^{ひき}蹴上げが18 cm 以下、^{ふみ}踏面が26 cm 以上となっており、この基準では、傾斜は最大で約35°である。

【建築基準法による階段の基準】

*下の図は、階段の傾斜が基準内で最大のときを表している。



数学: 社会生活や日常生活から課題を発見

【資料Ⅱ】

「著作権法」(抄)

(目的)

第一条 この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 著作物 思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。
- 二 著作者 著作物を創作する者をいう。
- 三 実演 著作物を、演劇的に演じ、舞い、演奏し、歌い、口演し、朗読し、又はその他の方法により演ずること(これらに類する行為で、著作物を演じないが芸術的な性質を有するものを含む。)をいう。

(技術の開発又は実用化のための試験の用に供するための利用)

第三十条の四 公表された著作物は、著作物の録音、録画その他の利用に係る技術の開発又は実用化のための試験の用に供する場合には、その必要と認められる限度において、利用する。

(営利を目的としない)

第三十八条 公表された著作物の複製権等(いづれの名義をもたず)を行使し、又は口述について実演家又は口述を行う者に対し報酬が支払われる場合は、この限りでない。

(時事の事件の報道のための利用)

第四十一条 写真、映画、放送その他の方法によつて時事の事件を報道し、又は当該事件を構成し、又は当該事件の過程において見られ、若しくは著作物は、報道の目的上正当な範囲内において、複製し、及び当該事件に伴つて利用することができる。

国語:
社会生活や日常生活から課題を発見
データを元に考察

新課程と大学入試

新課程の影響：共通テスト

○内容の変更：具体例

問 2 次の文章は、管楽器に関する生徒 A, B, C の会話である。生徒たちの説明が科学的に正しい考察となるように、文章中の空欄 **ア** ~ **ウ** に入れる語句の組合せとして最も適当なものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。

3

A：気温が変わると管楽器の音の高さが変化するって本当かな。

B：管楽器は気柱の振動を利用する楽器だから、気柱の基本振動数で音の高さを考えてみようか。

C：気温が下がると、音速が小さくなるから基本振動数は **ア** になって音の高さが変化するんじゃないかな。

B：管の長さだって温度によって変化するだろう。気温が下がると管の長さが縮むから、基本振動数は **イ** なるだろう。

A：どちらの影響もあるね。二つの影響の度合いを比べてみよう。

理科：日常生活の中から課題を発見

B 次の授業では、いくつかのグループに分かれて、さらに主題を追究した。そのうち二つのグループは、近代の教育制度に着目した。

問 4 後藤さんのグループでは、教育の目的について、次の資料 4・資料 5 を取り上げて、ドイツと日本の事情について考察した。下線部④の指しているドイツの事例として適当なもの **あ・い** と、下線部⑤の指している日本の事例として適当なもの **う・え** と、二つの資料に共通する意図として適当なもの **a・b** との組合せとして正しいものを、後の①~⑧のうちから一つ選べ。

資料 4 フィヒテ『ドイツ国民に告ぐ』（1807~1808年）

(略) 国家が国民教育を行えば、これが唯一の出費になるということ

地歴：
授業において生徒が学習する場面

の大半は常備
については既に
なされた。これらもまた国家の利益に資する。私たちが提案している国民教育を広く導入したならば、若者の世代が成長して教育を終了した瞬間から、国家は、特別な軍隊を全く必要としなくなり、今までにないような軍隊を持つことになるだろう。(略) さらに、国家が適切に労働者階級を助けることができれば、彼らは国家の示を感謝を持って受け入れるのである。

新課程と大学入試

新課程の影響: 個別試験

【英語】(2019年東京大学)

新たに祝日を設けるとしたら、あなたはどのような祝日を提案したいか。その祝日の意義は何か。また、なぜそのような祝日が望ましいと考えるのか。60～80語の英語で説明しなさい。なお、この場合の祝日は、国民のための祝日でもよいし、国内外の特定の地域、もしくは全世界で祝うようなものでもかまわない。

【数学】(2021年一橋大学)

「1000以下の素数は250個以下であることを示せ」

【地理】(2021年東京大学)

インターネットの普及は、国際社会で使われている言語の状況にどのような変化をもたらしたか？(30字以内で説明せよ)

→知識ではなく、問題の本質を答えさせる問題

新課程と大学入試

新課程の影響: 個別試験

【総合】(2021年早稲田大学政治経済学部)

高齢者の生活を支援するのにあなたが有効と考える政策は何か。本文の図表を適宜用いながら、その政策がなぜ有効かとともに、200字以内で記述せよ。

図5 世帯主の年齢階級別単独世帯数

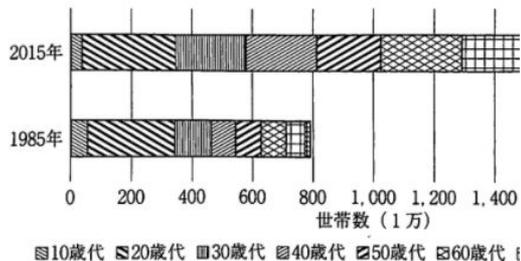


図1 日本における出生数と死亡数の推移

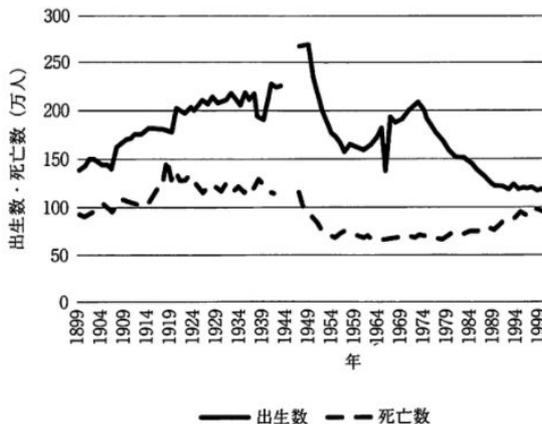
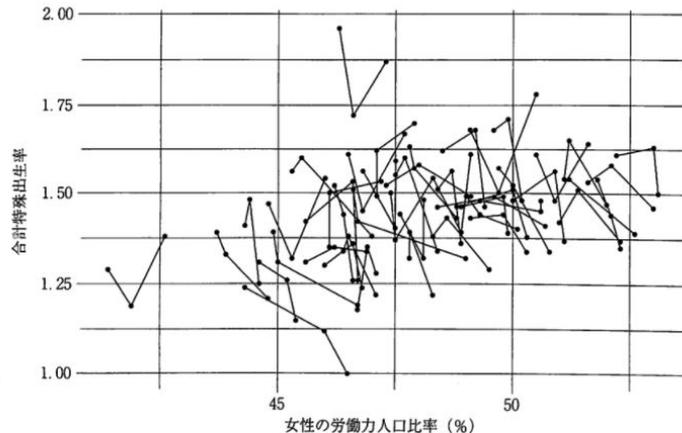


図4 都道府県別合計特殊出生率と女性の労働力人口比率(2005年、2010年、2015年)



- ・教科と直結しない知識
- ・思考力・表現力

が求められる問題

新課程と大学入試

大学入試に必要な力

○ゆるぎない基礎学力

- ・知識があることは大前提。「知識の理解の質を問う」「もっている知識を活用して解く」というのは、知識そのものを問われるよりも厄介



盤石な知識の養成が必須

■英語

- ・文法の正しい理解
- ・単語／基本例文のインプット

■国語

- ・古典文法の定着
- ・定期的に「読む」訓練

■数学

- ・教科書レベルの例題・基本問題が確実に解ける
- ・公式や定理は丸暗記ではなく「理解」する
- ・苦手な単元を放置しない

新課程と大学入試

大学入試に必要な力

○思考力の養成

思考力は「センス」ではなく、「習慣」によって培われます

得た知識でもって問題に取り組み、得た知識を使ってみる→使いこなせなければ、また問題に取り組み、時には知識を得ることに立ち返る

そうした反復の学習を繰り返す中で、身についていく力です

■英語

- ・英文を読む・書く
- ・単語／基本例文のアウトプット

■数学

- ・頭・手を使った問題演習

■国語

- ・現代文・古文問わず、初見の文章に取り組む

日々の学習が、知識・思考力の養成につながってきます

3. 今から始める受験準備

大学入試にむけての準備

大学入試の準備の手順(高 1～高2)

①日々の学習に手を抜かない

- ・英数国: 苦手範囲のない状態にする＝日々の学習をきちんと

+

やったままにならないようにする＝模試などを活用して、定期的な振り返りを

- ・学習習慣の定着: テスト前だけでなく、定期的な学習を

毎日一定時間、机に向かう習慣を

- ・学習計画の策定: 漫然と日々を過ごさないためにも、学習計画を

⇒計画は、

- ・達成したいこと→そのために必要な作業・期間を具体的に洗い出す

→1日どのくらいやればいいのか考える

- ・長期→中期→短期、で考える

⇒計画を立てるのが難しい場合は、

実施した学習の見える化から始める

大学入試にむけての準備

大学入試の準備の手順(高 1～高2)

②情報入手:大学で学びたいこと、将来を考える

- ・やりたいことを考える
- ・大学について調べる
 - つきたい職業から大学を決める、やりたい勉強で決める、行きたい大学で決める…
- ・文系／理系の選択は、苦手を決めないこと

↓

- ・興味がある大学が見つかったら、大学のホームページを確認する
 - ⇒入試方法、入試科目などを確認する
 - ⇒残り期間で達成すべき目標を設定する

★高2の夏くらいには、ある程度方向性が決まっているとよい

大学入試にむけての準備

大学入試の準備:高 1だからこそ、心がけてほしいこと

■好きなことをぜひ探求してください

■知見を広げましょう

本を読んだり、ニュースを見たり、探究活動の時間を大切にしたり
すべてが、大学入試とその先の将来につながってきます
※高3になったらできないこと

■活きた英語に触れましょう

高1～高2は、自分の将来について考えることのできる重要な時期です
後悔のない進路選択を祈っています

ご視聴いただき、ありがとうございました。

入試に向けて不安なことがございましたら、
ぜひZ会東大進学教室／Z会進学教室大学受験部に、
ご相談ください。